

東工大生命理工の有坂と申します。現在、後期にこちらの教養学部基礎科の非常勤講師を勤めておりまして、その関係もあってルヴェソンヴェールでも何度か食事をさせていただいたことがあります。しかし、今日のようにフルートを演奏する機会があるとは思っていませんでした。実は、司会の押鐘君が誘ってくれました。

最近、みすず書房から「神谷美恵子コレクション」が刊行され、先月最後の5冊目の「本、そして人」が出ました。神谷美恵子さんは「生きがいについて」などの著作で著名な方ですが、この最後の巻の付録に、28歳の時に書かれたという「バッハの音楽」というエッセーが載っておりまして、神谷美恵子さんもバッハに傾倒していらっしゃったことが分かってとても嬉しく思いました。神谷さんも言っていたらっしゃいますが、本当に厳格な形式を採用して、複雑な規則に従いながらその中で淡々と全く自由に生命の自由を歌いあげるバッハはやはり天才としかいいようがないと思います。

私は、長年、蛋白質の研究を行っております。最近、アメリカの人たちとの共同研究で、分子量32万というウイルスのある大きな蛋白質の立体構造を決定することができました。このうちの分子量15万くらいに相当する部分について、丸善の1オングストローム1cmの分子模型を使いまして、趣味みたいなものですが、1年ほどかかって、高さ1mを超す大きな分子模型を作りました。この模型を毎日つらつら眺めていて思っているのは、蛋白質という巨大な分子は20種類のアミノ酸がペプチド結合という結合によってつながったものですが、バッハの音楽と同じように大変厳格な結合様式を採用して、複雑な規則に従いながらとても美しい構造物を構築している、ということです。バッハの音楽とちょっと違いますのは、これが一人の天才によって作られたものではなくて、生命の起源から始まって、何十億年という気の遠くなるような年月を経て、自然が作り出したものだということです。



今日はすでに紹介のありました「音楽の捧げもの」に挑戦してみたいと思います。